



## 2010年9月期 決算説明資料

2010. 11.18(東京) 2010. 11.22(大阪)



Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

### ■ 当資料について



#### ○ 用語の説明

- DSS……振動シミュレーションシステム(振動試験装置、複合環境試験装置)
- MES……メジャリングシステム(振動計測装置、振動監視装置、地震監視装置)
- MIG……環境信頼性評価システム(マイグレーションテスター、電気試験装置)
- TSS……テスト&ソリューションサービス(テストラボ事業、ソリューション事業)
- EGS……エンジニアリングサービス(振動試験装置・計測装置の修理・点検・保守)

#### ○ 免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## ■ 決算概要と主要アクション



### 決算概要

- 売上高・受注高:  
受託試験の増加や振動シミュレーションシステムにおいて輸出が伸びたこと等により、受注高は前期比53.3%増の4,549百万円となり、売上高は前期比1.6%増の4,223百万円となりました。
- 当期純利益:  
固定費削減が当初の想定を上回ったことや限界利益率の改善もあり、当期純利益は356百万円となり、前期と比べ680百万円の増益(前期は当期純損失324百万円)となりました。

### 主要アクション

- 新製品の開発:
  - ✓ 需要が高まっているリチウムイオン電池向けの検査装置や新型マイグレーションテスターをリリースしました。
  - ✓ 省エネ型振動シミュレーションシステム「エコシェーカー」シリーズにおいて、水冷型の大型システムを開発しました。
- 他社との協業を推進:  
GEエナジー・ジャパン株式会社やデンマークのブリュエル・ケアー社と業務提携契約を締結し、品揃えや販売チャネルを強化しました。国内では開発力の強化を目的に、電子機器の開発受託を行う株式会社データ・テクノを連結子会社化しました。

### 今後の展開

- 駐在員派遣など海外展開を一層強化すると共に、引き続き新規事業分野への展開を加速いたします。また、既存事業分野においても新製品の投入等により収益性の向上を図ります。

## ■ 決算概要(連結)



(単位:百万円)

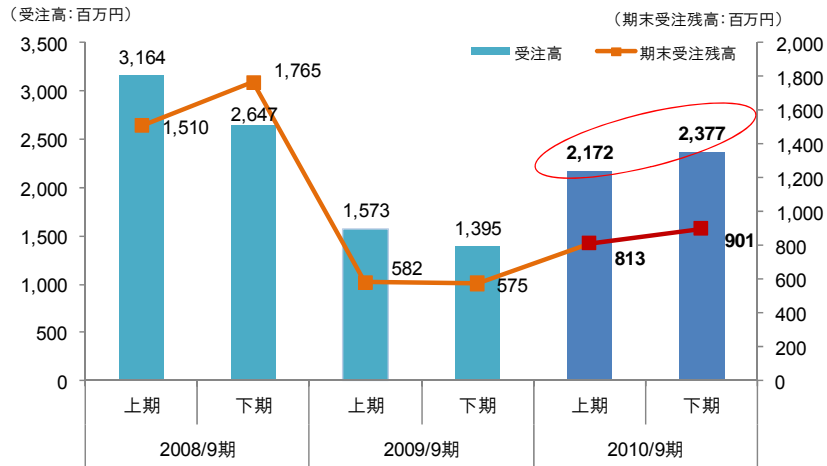
	10/9期 実績	09/9期 実績	増減額	増減率	10/9期 予想	増減率
受注高	4,549	2,968	+1,581	+53.3%	—	—
売上高	4,223	4,158	+65	+1.6%	4,175	+1.2%
営業利益 (営業利益率)	417 (9.9%)	△173 (△4.2%)	+591	—	170 (4.1%)	+145.6%
経常利益 (経常利益率)	405 (9.6%)	△178 (△4.3%)	+584	—	130 (3.1%)	+212.2%
当期純利益 (当期純利益率)	356 (8.4%)	△324 (△7.8%)	+680	—	130 (3.1%)	+174.0%

	10/9期 実績	09/9期 実績	増減額	増減率	概要
設備投資額	28	313	△285	△90.9%	前期に鉄道テストラボの大型投資があった影響。
減価償却費	252	279	△27	△9.7%	設備投資縮小の影響。
研究開発費	159	196	△36	△18.8%	研究開発費で予定していた案件を受注工事として原価計上した影響。
従業員数(人)※	194	213	△19	△8.9%	早期希望退職の募集と非正規従業員の雇用調整の影響。

※△は損失を表します。従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

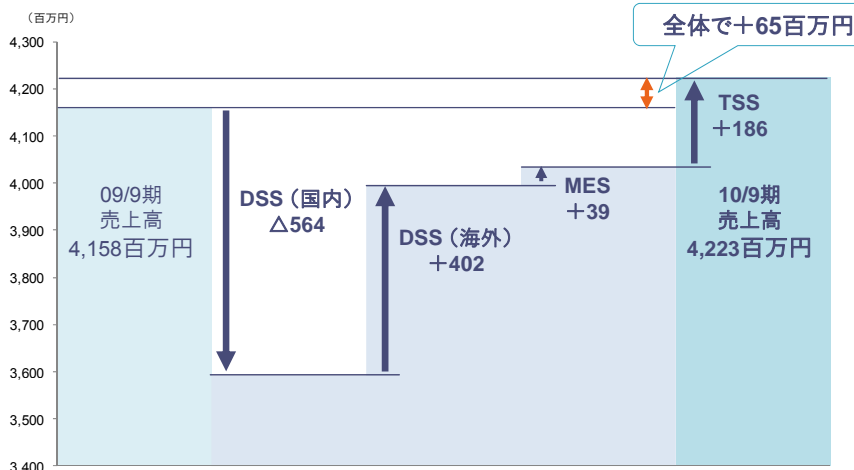
売上高は前期比65百万円増収の4,223百万円となりました。固定費の削減及び利益率の高い製品の構成比率が高まったことにより、営業利益は前期比591百万円増益の417百万円、経常利益は前期比584百万円増益の405百万円となりました。当期純利益は前期比680百万円増益の356百万円となりました。

## ■ 受注の状況



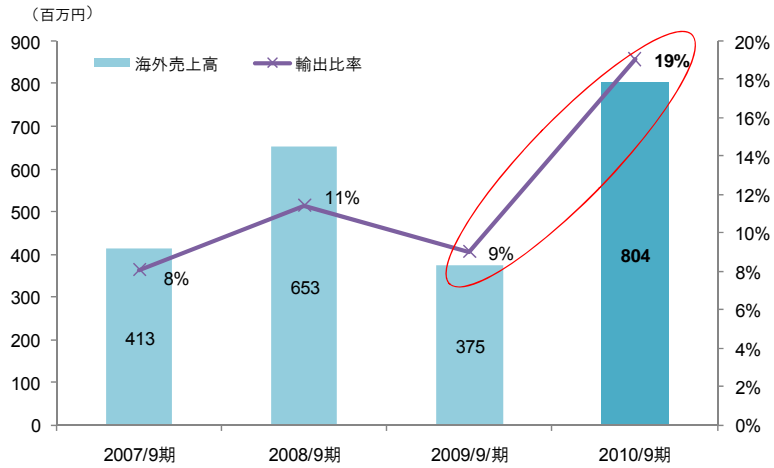
2010/9期に入り、企業業績の改善に伴い設備投資が再開され、当社の受注動向も改善をしております。上期末から下期にかけては、韓国を始めとした海外からの受注も増加し、年間の受注高につきましては4,549百万円となり、前期と比べ1,581百万円の増加(前期比53.3%増)となりました。

## ■ 売上高増加要因(連結)



DSSの国内向け販売につきましては、自動車関連業界や航空宇宙関連業界向けの売上は回復基調にありますが、前期に計上されたような大型案件が減少した影響により減収となりました。一方、海外向けの売上や、MESにおける連結子会社の売上寄与、テストラボ事業の伸長などにより、全体としては65百万円の増収となりました。

## ■ 輸出比率の増加

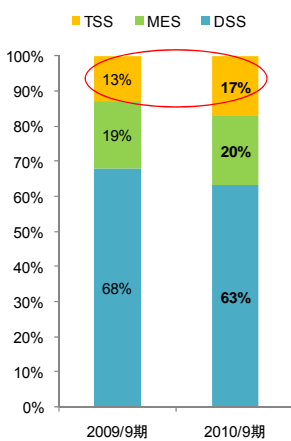


当期に入り主要相手国である韓国向けの受注が改善した他、中国やロシア向けにつきましても堅調に推移した結果、過去最高の海外売上高・輸出比率となりました。

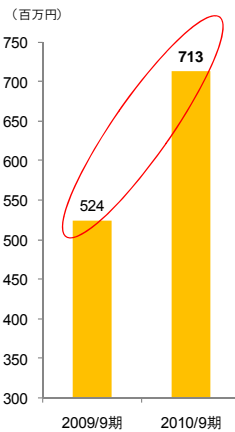
## ■ 品目別ポートフォリオ



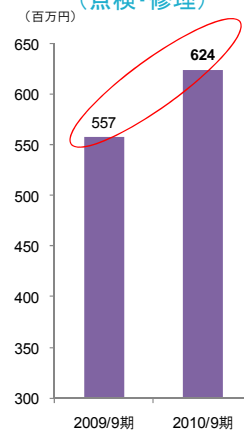
### ○ 品目別売上構成比



### ○ テストラボ

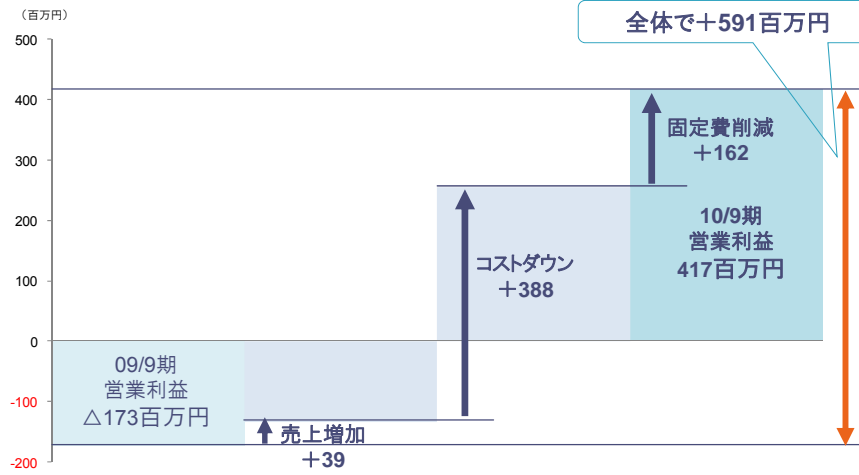


### ○ エンジニアリングサービス (点検・修理)



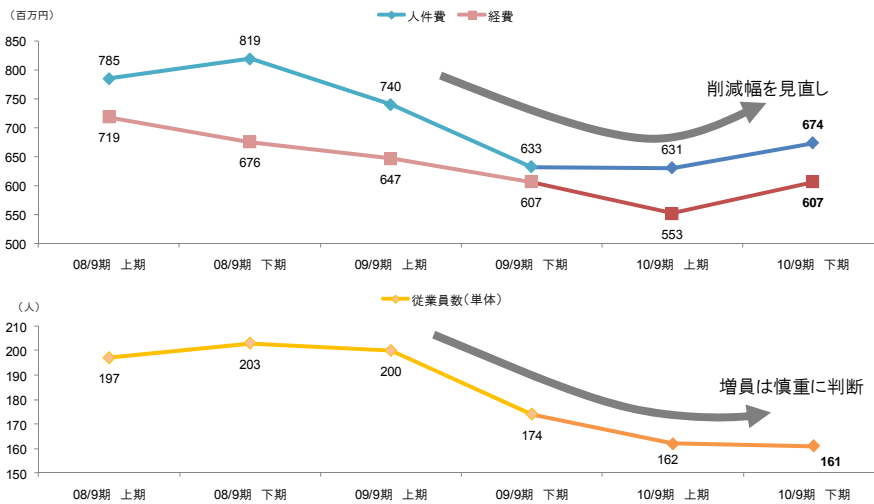
DSSの分野において大型特注装置の販売が減少した一方、TSSの売上が増加した影響により、TSSの売上構成比が4ポイント増加しております。その他、比較的利益率の良い点検・修理部門の売上が増加した影響もあり、全社利益率の改善に寄与しております。

## ■ 営業利益増加要因(連結)



研究開発的要素が強く追加コストが発生する大型特殊案件が減少した一方、テストラボや点検修理といった比較的利益率の良い事業の構成割合が増加したことに加え、過去からのコストダウン活動の効果も重なり、大幅なコストダウン効果が得られました。また、固定費の削減効果が寄与したこともあり、全体としては591百万円の増収となりました。

## ■ 固定費・経費の削減



当期に入り景気の後退に底打ちが見られ、受注が回復基調に戻ったことに伴い、各種固定費の削減について見直しを行いました。人件費につきましては、増員を行うことよりも従来からの従業員の削減幅を縮小することを優先しました。経費関係では、売上増加に伴う費用の増加や、下期に入り研究開発を強化した影響もあり増加基調となりました。

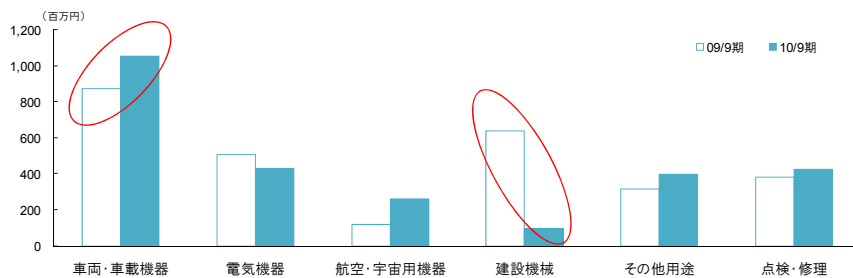
## ■ 振動シミュレーションシステム



(単位:百万円)

	10/9期	09/9期	増減額	増減率
車両・車載機器向け	1,052	870	+183	+21.0%
電気機器向け	432	506	△74	△14.6%
航空・宇宙用機器向け	262	117	+145	+123.6%
建設機械向け	95	637	△542	△85.1%
その他用途向け	395	316	+79	+25.0%
点検・修理	427	379	+48	+12.7%
合計	2,666	2,827	△161	△5.7%

- 韓国を始めとした海外からの受注が好調に推移したほか、国内においても自動車関連業界や航空宇宙関連業界を中心に需要が回復しましたが、前期に計上された建設機械向けシステムの様な大型案件の計上が少ないことにより、前期比161百万円減収の2,666百万円となりました。
- 欧州最大の振動シミュレーションシステムメーカーLDS社の親会社であるブリュエル・ケアー社と業務提携を締結しました。これにより、市場の拡大と製品ラインナップの強化を図ることができました。
- 省エネ型振動シミュレーションシステム「エコシェーカー」シリーズにおいて、発売当初未対応であった水冷型の大型システムを開発し、納入いたしました。



11

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

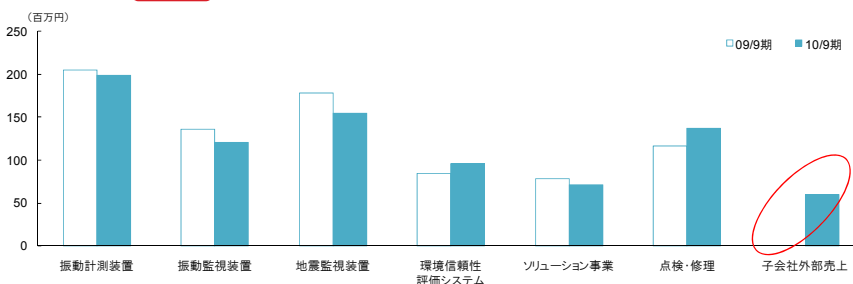
## ■ メジャリングシステム



(単位:百万円)

	10/9期	09/9期	増減額	増減率
振動計測装置	199	205	△6	△3.2%
振動監視装置	121	136	△14	△10.9%
地震監視装置	155	178	△23	△13.0%
環境信頼性評価システム	96	85	+10	+12.1%
ソリューション事業	71	78	△7	△9.0%
点検・修理	137	116	+20	+17.7%
子会社外部売上	60	0	+60	—
合計	841	801	+39	+5.0%

- 既存製品につきましては、受注は回復に転じているものの、期ずれ等により売上貢献は限定的となりましたが、当期に連結子会社化した株式会社アータ・テクノの売上が寄与し、売上高は前期比39百万円増収の841百万円となりました。
- 設備状態監視システム分野においてGEエナジー・ジャパン株式会社とBently Nevada(ベントリーネバダ)製品の販売等に係る業務提携契約を締結しました。
- 需要が高まるリチウムイオン電池向けの検査装置や新型マイグレーションテスターをリリースしました。
- 風力発電機向け振動監視装置や太陽光パネル向けテスターといった新規性の高いアイテムの開発に注力しました。



12

Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

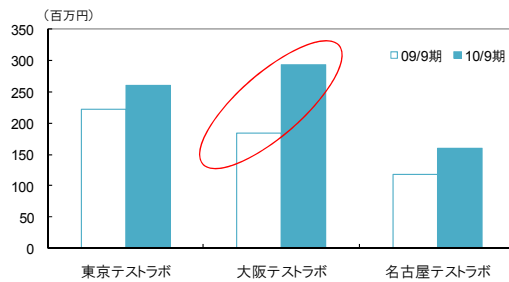
## ■ テスト&ソリューションサービス



(単位:百万円)

	10/9期	09/9期	増減額	増減率
東京テストラボ	260	222	+38	+17.4%
大阪テストラボ	293	184	+109	+59.3%
名古屋テストラボ	159	118	+40	+34.6%
子会社外部売上	2	4	△2	△44.4%
合計	716	529	+186	+35.2%

- 大阪に新設した鉄道車両機器向け試験装置がフル稼働の状態へ推移したほか、自動車関連分野では電気自動車関連の試験が増加しており、売上高は前期比186百万円増収の716百万円となりました。
- 東名阪の全ての拠点において前期を上回る受注高、売上高となりました。



● 鉄道車両機器用試験装置



## 今後の取り組み



## ■ 業績の見通し(連結)



(単位:百万円)

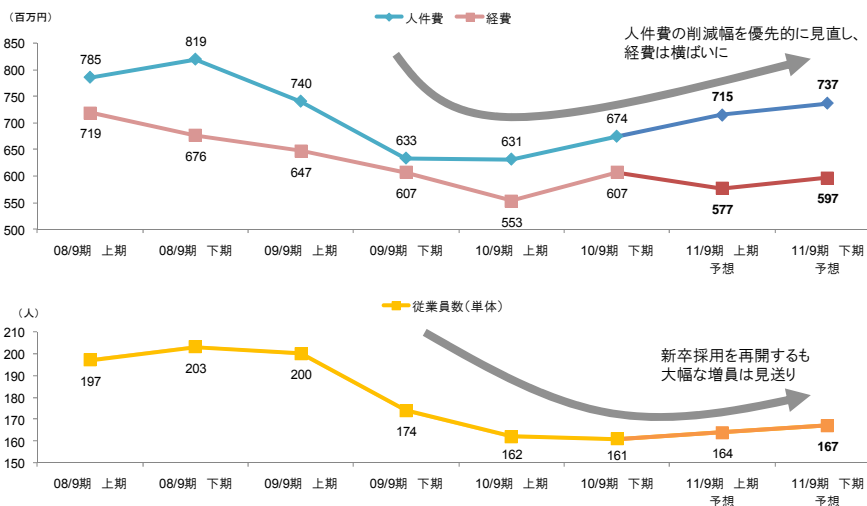
	11/9期 予想	10/9期 実績	増減額	増減率	概要
売上高	4,600	4,223	+376	8.9%	海外展開や協業による売上増加を想定
営業利益 (営業利益率)	325 (7.1%)	417 (9.9%)	△ 92	△ 22.1%	固定費削減幅見直しの影響
経常利益 (経常利益率)	300 (6.5%)	405 (9.6%)	△ 105	△ 26.1%	助成金減少の影響
当期純利益 (当期利益率)	155 (3.4%)	356 (8.4%)	△ 201	△ 56.5%	10/9期に繰延税金資産の積み増しをした影響
設備投資	201	28	172	605.6%	テストラボの設備更新や合理化投資
減価償却費	247	252	△ 5	△ 2.2%	09/3に開設した鉄道テストラボの償却負担が軽減
研究開発費	160	159	+0	0.3%	子会社を有効活用し費用は抑えつつ、開発強化
従業員数(人)※	200	194	+6	—	新卒採用を再開
1株当たり当期純利益(円)	9.48	21.79	△ 12.31	△ 56.5%	—
1株当たり配当金(円)※	3.00	2.00	+1.00	—	—

※ 従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※ 10/9期の配当金につきましては、2010年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。

海外向け売上や新規事業分野での売上増加を見込み、売上高は4,600百万円と想定しております。利益面では、引き続き人件費の削減幅を縮小することや、研究開発や設備投資を強化するための費用も見込んでいるため、営業利益は325百万円、経常利益は300百万円と予想しております。当期純利益は10/9期のように繰延税金資産を積み増す必要性がないため、155百万円と予想しております。なお、配当につきましては1円増配の3円と予定しております。

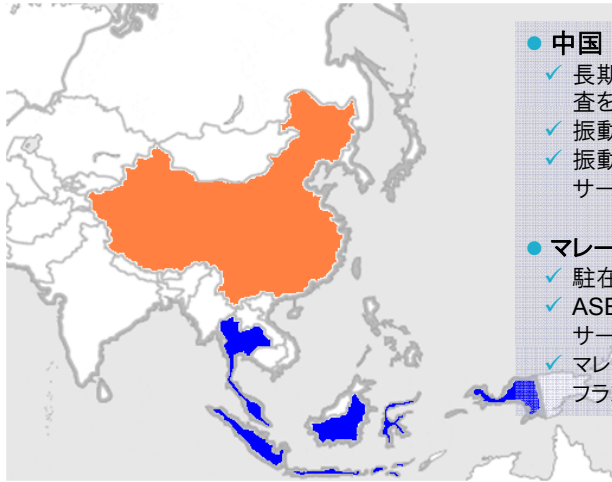
## ■ 固定費削減幅の見直し



10/9 下期から引き続き人件費の削減幅の縮小を継続する一方で、研究開発や設備投資は再開するものの、他の経費を抑えることで、経費の総額は横ばいとなるよう計画しております。従業員数につきましては、新卒採用を再開するとともに、今後の事業成長に必要な人材の中途採用を併せて行う計画であります。

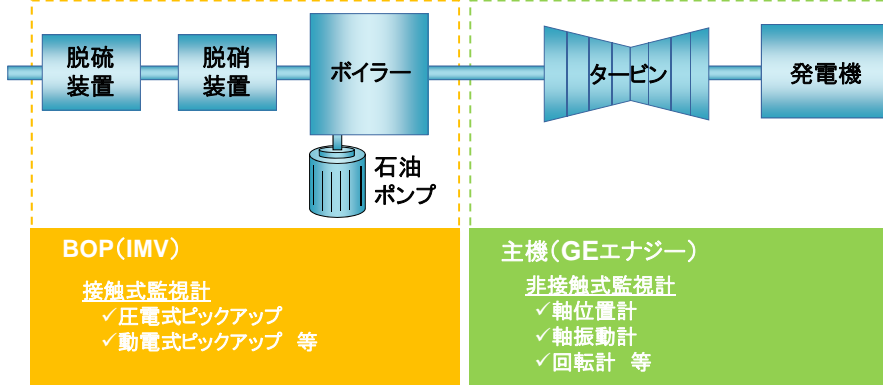


## ■ 海外ビジネスの強化 ～現地へ人員派遣～



- 中国
  - ✓ 長期出張によるマーケティング調査を実施
  - ✓ 振動計測装置の拡販
  - ✓ 振動シミュレーションシステムのサービス体制強化
- マレーシア
  - ✓ 駐在員事務所を設置
  - ✓ ASEAN地域への販売支援とサービス体制強化
  - ✓ マレーシアでのテストラボフランチャイズ開始

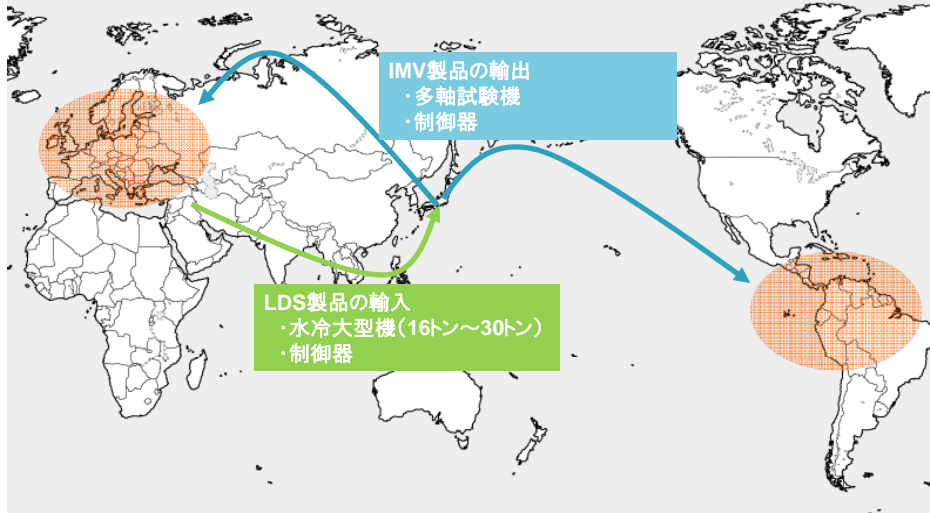
## ■ コラボレーション① GEエナジー



**トータルサポート**

- ・ 製品販売
- ・ キャリブレーション
- ・ メンテナンス

## ■ コラボレーション② Brüel & Kjær(ブリュエル・ケアー)



## ■ 新製品① 耐電圧測定技術の応用



### ○ 微小電流計測技術

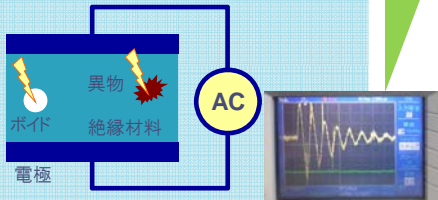
電流計測



2重ガード

ノイズ抑制のためにシールド線を用いますが、微小電流の場合、問題が生じることがあります。その影響を回避するガード構造を採用し、微小電流測定を実現しています。

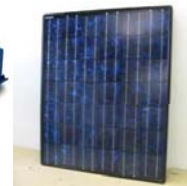
### ○ 部分放電計測技術



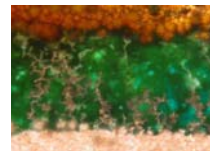
絶縁材料中に生じる微弱な放電を検知し、試験品の絶縁性を評価します。



● リチウムイオン電池の評価



● 太陽光パネルの劣化診断の評価



● イオンマイグレーション



● 耐圧テスト/欠陥検出

■ 新製品② 次世代ポータブル振動計のリリース

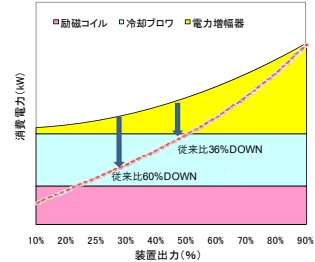


**ついに! ポータブル振動計からケーブルがなくなった!!**

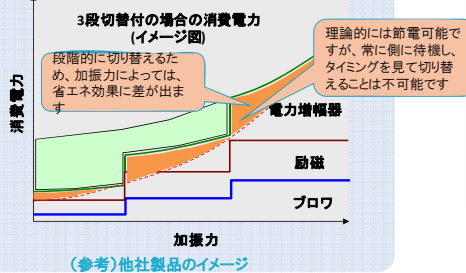


- ① ケーブルレスですっきり、かつ危険も回避
- ② 端末の自由度拡大
- ③ 計測ミス防止やルート設定など新機能も搭載

■ 新製品③ Eco Shaker技術の提供



●Eco Shakerによる省エネ効果



(参考)他社製品のイメージ

各試験機メーカーへ提供





## 中期的な戦略について



Copyright © IMV CORPORATION 2010 All right reserved

### ■ 中期経営方針の骨子



★経営理念に基づく、更なる成長を目指す！

**SECURE THE FUTURE / FIRST Choice for our partners.**

- Future (安全を見つめて未来の社会に貢献します。)
- Integrity (誠実で開かれたパートナーシップを大切にします。)
- Reliability (製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます。)
- Strength (振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します。)
- Technology (顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します。)

更に多くのお客様に、今まで以上の“安心”“安全”“最大の満足”を提供

## ■ 前年度を振り返って



★V字回復を目指した、下地作りと、我慢と改善の1年・・・その中でも、以下の成果は将来(中期)計画の重要な要素となった。

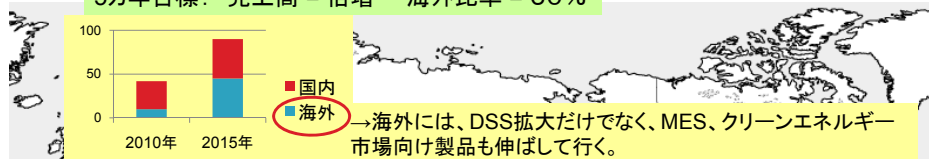
- ・海外企業との業務提携や、販促活動を順調に進めることができた。  
→海外展開促進に向け、メニューや幅を拡げることができた。
- ・新エネルギー市場における新規事業も、芽が出始めた。  
→顧客の要求に応じた新製品を数台リリースでき、将来の柱としての成長に好感触を得ることができた。
- ・苦しい1年であったが、スリム化の中での効率化、コスト改善を実現できた。  
→技術力をベースにしたコスト戦略に自信がついた。

⇒これらの実績を基に中期計画を見直し、実現するための組織を構築し、  
全社・部門アクションプランを遂行している。

## ■ 中期的な目標と戦略



5カ年目標：売上高 = 倍増 海外比率 = 50%



→海外には、DSS拡大だけでなく、MES、クリーンエネルギー市場向け製品も伸ばして行く。

・バランススコアカードの概念による4つの視点に開発の視点を加え、経営戦略・指標 及び課題を分析し、上記の基本目標を定めた。

・スリム化した人材の育成も、企業成長の重要課題であり、重点投資する。

ありがとうございました



代表取締役会長 小嶋 成夫

代表取締役社長 岡本 二郎

執行役員 経営企画本部長 桂井 徹

■ お問い合わせ先

IR窓口：経営企画部・IR担当 大和

TEL：06-6478-2565 FAX：06-6478-2567

E-MAIL：imvir@imv.co.jp <http://www.imv.co.jp>

○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

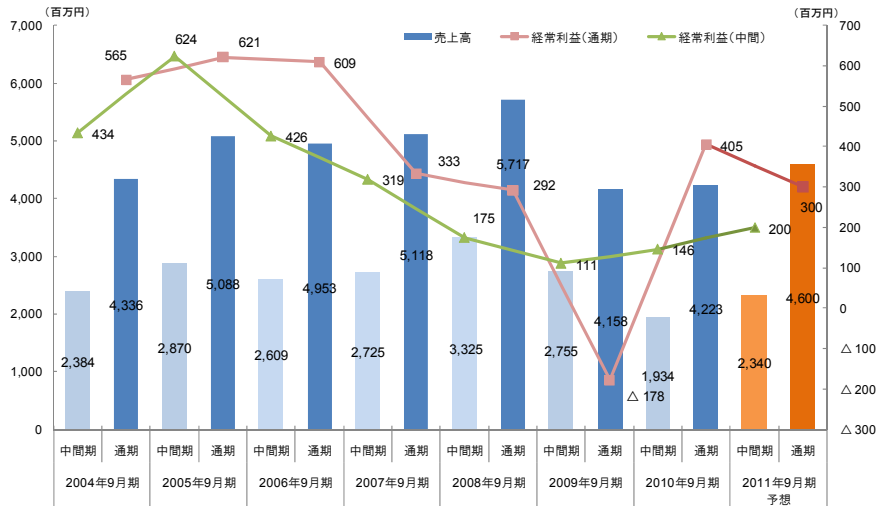
本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。



(ご参考資料)



## ■ 業績推移(連結)



※ △は経常損失を表します。

## ■ 貸借対照表の概要(連結)



(単位:百万円)

	10/9期末	09/9期末	増減額		10/9期末	09/9期末	増減額
流動資産	3,863	3,303	+559	流動負債	3,527	3,361	+165
現金預金	1,177	878	+299	仕入債務	841	497	+344
売上債権	1,802	1,508	+293	短期有利子負債	2,272	2,589	△ 316
棚卸資産	745	708	+36	その他流動負債	412	274	+138
その他流動資産	138	207	△ 69	固定負債	1,302	1,576	△ 274
固定資産	3,215	3,546	△ 331	長期有利子負債	1,043	1,257	△ 214
有形固定資産	2,965	3,232	△ 267	その他固定負債	258	318	△ 59
無形固定資産	50	59	△ 9	負債合計	4,829	4,938	△ 108
投資その他資産	199	254	△ 54	純資産合計	2,249	1,912	+336
資産合計	7,078	6,850	+228	負債・純資産合計	7,078	6,850	+228

資産の部 : 期末売上の増加に伴い売上債権や棚卸資産が増加した影響により、流動資産が559百万円増加しました。また、保有不動産の減損損失等により固定資産が331百万円減少しました。

負債の部 : 期末生産の増加に伴い仕入債務の増加等がありました。借入金の返済等により負債合計は108百万円減少しました。

純資産の部 : 当期純利益の計上による利益剰余金の増加により純資産合計は336百万円増加しました。



## ■ キャッシュフロー計算書の概要(連結)



(単位:百万円)

		10/9期	09/9期	増減額
①	営業活動によるキャッシュ・フロー	814	△ 311	+1,125
②	投資活動によるキャッシュ・フロー	199	△ 285	+485
①+②	フリーキャッシュフロー	1,014	△ 596	+1,610
③	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 559	884	△ 1,444
④	現金及び現金等価物に係る換算差額	0	△ 1	+1
⑤	現金及び現金同等物の増減額	454	287	+167
⑥	現金及び現金同等物期首残高	645	358	+287
⑦	現金及び現金同等物四半期末残高	1,100	645	+454

営業CF	:税金等調整前当期純利益311百万円、減価償却費252百万円、仕入債務の増加342百万円等の増加要因が、売上債権の増加280百万円等の減少要因を上回ったことにより、814百万円の増加となりました。
投資CF	:定期預金の払戻しによる収入208百万円等による増加要因が有形固定資産の取得による支出26百万円等の減少要因を上回ったことにより、199百万円の増加となりました。
財務CF	:短期借入金の純減少額377百万円、長期借入金の返済による支出614百万円等の減少要因が、長期借入による収入550百万円等の増加要因を上回ったことにより、559百万円の減少となりました。

## ■ 会社概要(2010年9月期連結)



社 名 : IMV株式会社 (英文社名:IMV CORPORATION)  
 証 券 コード : 7760 (大証JASDAQ(スタンダード)/精密機器)  
 設 立 : 1957年4月17日  
 事 業 概 要 : 振動シミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売  
 及びテスト&ソリューションサービスの提供  
 代 表 者 : 代表取締役会長 小嶋 成夫  
 代表取締役社長 岡本 二郎  
 売 上 高 : 4,223百万円  
 経 常 利 益 : 405百万円  
 資 本 金 : 464百万円  
 従 業 員 数 : 194人 (32名の期中平均臨時従業員含む)  
 本 社 所 在 地 : 大阪市西淀川区竹島2-6-10  
 (本社/開発センター/生産本部/東京営業所/大阪営業所/名古屋営業所/  
 東京テストラボ/大阪テストラボ/名古屋テストラボ)



## ■ 会社沿革



1957年 4月	株式会社国際機械振動研究所を設立
1974年 10月	会社更生法を大阪地裁へ申請 小嶋成夫(現会長)が更生管財人として自力再建を開始
1985年 7月	残3回の弁済計画を繰り上げ、会社更生手続きを終結
1994年 9月	日東精機㈱を100%子会社化
1998年 4月	国内初のテストラボ専用施設を完成(東京工場敷地内)
2005年 5月	本社・大阪工場を大阪市西淀川区に移転・統合
2005年 6月	大阪テストラボ開設
2005年 7月	ジャスダックに上場
2007年 2月	大阪にショールーム開設
2007年 4月	会社設立50周年
2007年 9月	名古屋テストラボ開設
2009年 3月	大阪テストラボに鉄道車両機器向け新試験棟開設
2009年 12月	㈱データ・テクノを100%子会社化

## ■ 経営ポリシー



# SECURE THE FUTURE

## ~IMVが見守る未来~

### FIRST Choice for our Partners

<b>Future</b>	安全を見つめて未来の社会に貢献します
<b>Integrity</b>	誠実で開かれたパートナーシップを大切にします
<b>Reliability</b>	製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます
<b>Strength</b>	振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します
<b>Technology</b>	顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します

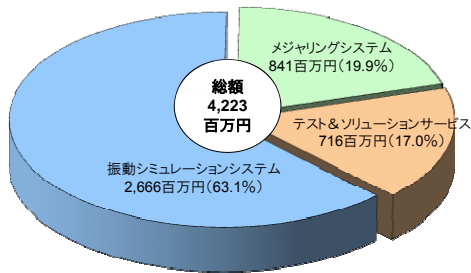
## ■ 国内トップシェアを実現する3つの事業



振動を**再現**する  
振動シミュレーションシステム



振動を**計測**する  
メジャリングシステム



振動問題を**解決**する  
テスト&ソリューションサービス



## ■ 振動シミュレーションシステムの用途



～あらゆるシーンで使用されています～

